

1 本計画の基本的な考え方（本編 P13～）

本計画は、第2章の産業ミュージアム基本構想に基づき、（仮称）産業ミュージアム（以下「産業ミュージアム」という。）で実施する事業の方向性等について定めることで、基本理念で掲げる「板橋の産業ブランドを向上させるとともに、次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点」を整備することを目的として策定する。区が持つ地域資源を生かしながら、多様な組織が協力して新しい価値を生み出し、都市全体の魅力を高める「創造都市」の実現といった視点も視野に入れながら、整備を進めていく。

2 ソフト事業計画（本編 P24～）

江戸時代から近年に至るまで、当地で永く行われてきた「研究」というキーワードに着目し、次の基本的な考え方に基づき、6つのテーマに沿ってソフト事業を展開していく。

（1）ソフト事業を展開していくための基本的な考え方

- ① 当地の歴史を背景とした事業展開
- ② 日々研究・実験が行われ、進化・発展を続ける事業展開
- ③ 多様な主体との共創により、新たな価値が創造される事業展開
- ④ 柔軟に運用が可能な事業展開
- ⑤ デジタル技術を積極的に活用した事業展開

（2）ソフト事業の展開の方向性



日本の産業と科学技術の進展に貢献した地で区産業の技術に触れ、創造力を育む事業



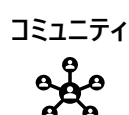
この地ならではの物理・科学の体験を通して、次世代の理系人材を育む事業



産業遺産を保存・展示し、この地の研究の歴史を発信する事業



企業や大学・研究機関等が連携して行う実証実験の拠点としての事業



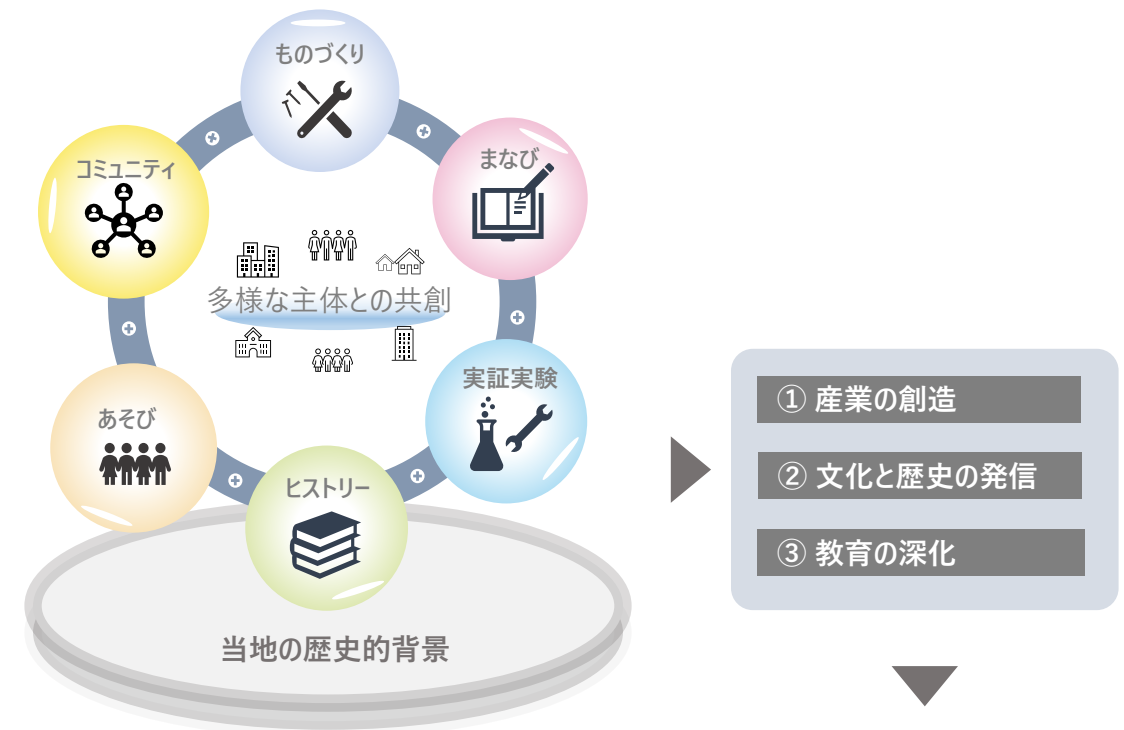
国史跡の空間で「ひと」と「ひと」がつながり、文化が生まれる事業



歴史的価値がある建造物内で、子どもたちがのびのび遊べる事業

◆ 事業展開のイメージ

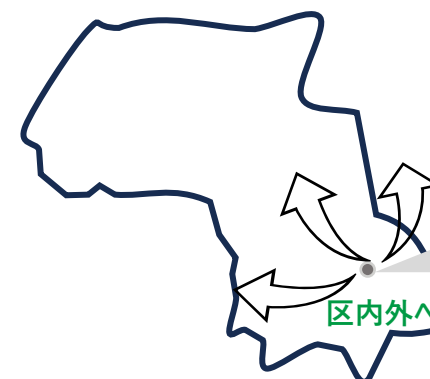
6つのテーマに基づき、多様な主体との共創による事業展開を行うことで、基本コンセプトとして掲げる「創造と知の起点」として社会的価値を生み出し、生まれた価値を区内外へ広げていく。



加賀の歴史に紡がれた、創造と知の起点としての役割を発揮する

- ・ これまで知られてこなかった加賀の歴史を学び、未来が創造される
- ・ 好奇心を呼び起こし、探求と研究のバトンを未来につないでいく
- ・ 「ひと」と「ひと」とのつながりが生み出され、新たな挑戦がはじまる

創造と知の起点として多様な主体と共創し「社会的価値」を区内外へ広げる



- ◆ 区の産業ブランドの向上
- ◆ 次世代の産業を担う人材や理系人材の育成
- ◆ 区への愛着と誇りの醸成

3 施設計画（本編 P41～）

当地の歴史を含めた建造物内の“保存”と産業ミュージアムとしての“活用”を図ることにより、“保存”と“活用”を両立させる。

